

質問

回答

Dominion SX II概要

Dominion SX IIとは何ですか？

Dominion SX IIIは、いつでも、どこからでも、IPでシリアル機器に安全にアクセスし、制御できるラリタンの次世代シリアルコンソールサーバーです。新しいSX IIIは業界で最もパワフルで、信頼性も高く、セキュアで使いやすく管理もしやすいSerial-over-IPコンソールサーバーとして、ネットワーク機器、サーバー、PDU、通信機器などのシリアル機器に、Javaを使用しない自在なアクセスを提供します。

SX IIと第一世代のSXとの違いは何ですか？

SX IIIはSXの次世代製品です。SX IIではハードウェアとソフトウェアが全面的に新しく設計され、SXよりも大幅にパワフルかつ高性能になっています。SX IIは実質的にSXの全機能に加え、エキサイティングな新機能を備えています。現行のSXとは異なり、すべてのSX IIモデルが二重化電源、二重化LAN接続、複数のローカル接続オプションを備えています。SX IIIには4、8、16、32、48ポートのモデルがあり、内蔵電話モデムの有無を選択できます。また、SX IIのユーザーインターフェースはJavaが不要で、管理機能の多くはDominion KX IIIと共通です。

SX IIIにはどのような新機能がありますか？

新機能には、Java不要のインターフェース、ギガビットイーサネット、IPv6ネットワークング、ロールオーバーケーブルを使用しないCisco機器との直接接続、FIPS140-2暗号化、USBメモリまたはTFTPを利用した自動構成、3G/4Gセルラーモデム対応、最大8GBのフラッシュメモリ、複数のラック前アクセスオプション、Dominion製品との互換性を備えたユーザーインターフェースと管理機能などがあります。

SX IIIは第一世代モデルSXの機能をすべて備えていますか？

SX IIIは実質的にSXの機能をすべて備えています。機能の一部（ファームウェア更新、既定のユーザーグループ）はDominionならではのさらにパワフルな機能と差し替えられ、使用頻度が特に低い機能の一部が廃止されています。

第一世代のSXの終息計画（ライフサイクル）を教えてください。

2016年4月1日時点でDominion SXモデルの販売が終了となります。販売終了発表日から2年間は、ラリタンが引き続き第一世代のSXのソフトウェアを限定的にサポートしますが、それ以降は、現行のSXのファームウェアをリリースする予定はありません。CommandCenterのサポートは、サポート終了日以降も継続される予定です。既存のハードウェア保証は引き続き有効です。

SX II購入時に買い替えキャンペーンはありますか？

はい。SXや競合他社のシリアルコンソールサーバーから買い替えて頂くキャンペーンを設ける予定です。

Dominion SX IIハードウェアプラットフォーム

ハードウェアはどのような点が改善されていますか？

多くの点で改善されています。さらにパワフルになったCPU、メインメモリ、フラッシュメモリ、二重化電源（AC/DC）、二重化ギガビットLANポート、ポートの状態を示すLED、4つのUSBポート、DTE/DCEポートの自動検知、ノートPCのUSB接続、DVI/USB接続、モデムオプションを全モデルで備えています。

SX IIIは第一世代のSXと比べてどのような性能ですか？

SX IIハードウェアプラットフォームは、1GHz CPU、8倍に増強したRAM、最大8GBのフラッシュメモリを搭載し、実質的に性能を高めました。SX IIIは1ポートにつき最大10セッション、合計で最大200のシリアルセッションをサポートします。同時接続、接続速度、シリアル処理における改善の程度に応じて、ポート構成は15~23倍高速化します。

SX IIIはどのようなネットワーク接続を利用できますか？

SX IIIは、自動検知で10/100/1000 MB接続をサポートするギガビットイーサネットLANポートを2口備えています。このLANポートは（1）シングルLAN接続または（2）二重化LAN接続で設定可能で、後者は（a）フェイルオーバーまたは（b）同時処理を行います。IPv4とIPv6を両方サポートしています。

**SX IIモデルはすべて1Uサイズですか？
48ポートモデルも1Uなのですか？**

はい、すべてのモデルが1Uサイズで、ラックマウントキット付きです。SXと同様、48ポートモデルはバックパネルに48ポートを搭載しています。そのスペースを確保するため、二重化電源出力はフロントパネルにあります。

ログに利用できるフラッシュメモリの容量を教えてください。

十分な容量を備えていると言えます。4ポートと8ポートのSX IIIは2GB、その他のモデルは8GBのフラッシュメモリを搭載しています。

SX IIIはリモート電源制御をサポートしていますか？

はい。SX IIIは、ラリタンのインテリジェントラックPDU PXシリーズとの接続を経由して、シリアル機器のリモート電源制御をサポートします。

SX IIのローカル管理ポートのピン定義は？

SX IIのローカル管理ポートはRJ-45ポートで、DTEピン配列は、1/RTS、3/TXD、4/GND、5/GND、6/RXD、8/CTS（ピン/信号で表示）です。ノートPCのDB9ポートに接続できます。その際、RJ-45（メス）からDB9（メス）への接続には、ラリタンASCSD9FアダプターとCat5ケーブルを 사용합니다。

19インチラックマウントキットが付属していますか？

はい。Dominion SX IIIには、取り付けに必要なものがすべてそろった19インチラックマウントキットが標準で付属します。

Serial over IPセッションとアクセス

どのような種類のシリアルアクセスを利用できますか？

SX IIでは、SSH、Telnet、Java不要のWebブラウザによるシリアル接続など、非常に幅広いシリアルアクセスを利用できます。WebブラウザアクセスはラリタンのCommandCenter を使用し、Java不要のHTML Serial Clientを経由して確立します。便利なダイレクトポートアクセス（DPA）方式が用意されています。ラック前アクセスはシリアルケーブル、USB、KVMコンソールで確立します。オプションの内蔵モデム、または外付けの3G/4Gセルラーモデムを使うと、緊急時にはモデムアクセスを利用できます。

ダイレクトポートアクセスとは何ですか？

SX IIIに接続された特定のシリアル機器に直接アクセスする便利な方法がダイレクトポートアクセスです。SSH、Telnet、HTTP/URL経由で複数のダイレクトポートアクセス（DPA）を利用できます。

SX IIIはTelnetをサポートしていますか？

サポートしていますが、Telnetは暗号化されたセッションをサポートしていないため、セキュリティ上の理由からデフォルトで無効になっています。TelnetではなくSSHのご利用をお勧めします。

緊急時に利用できるモデムアクセスとは何ですか？

2種類のモデムアクセスをサポートしています。まず、SX IIの各モデルは、オプションで内蔵電話モデム付き（DSX2-xxMというモデル名）を選択できます。また3G/4Gセルラーモデムを介したアクセスにも対応しており、Sierra Wireless Airlink、GS440、GX440、GX450ワイヤレスモデムをSX IIのUSBポートに接続すると、モデムのIPアドレス経由でSX IIIにアクセスできます。

Sierra Wirelessモデムのセキュアな接続を確保するにはどうすればよいですか？

SX IIのファイアウォール機能を利用してLinuxスタイルの「iptables」規則を作成すると、ワイヤレスモデムへのセキュアな接続を確保できます。モデム自体にもファイアウォール機能が装備されています。さらにセキュリティを向上させるには、Sierraモデムを有効にすることができます。ただし、このオプションはLANアクセスが使用できないときのみ有効です。

データセンター内でSX IIIにアクセスする方法は？

Dominion SX IIIにはラック前ローカルアクセスの手段が複数あります。ノートPCやPCと接続する場合は、端末のRJ-45シリアルポートかUSBミニBポートに接続します。クラッシュカートやラリタンのラックマウントコンソールドロワーはSX IIのDVI KVMポート、USB KVMポートに接続します。WebベースのSX IIユーザーインターフェイスに接続する場合は、クロスオーバーイーサネットケーブルをSX IIのLANポートに接続します。

複数のSX IIのローカルポートにまとめてアクセスするにはどうすればよいですか？

2つの方法があります。まず、Cat5UTPケーブル（標準のストレートケーブル）を使うと、複数のSX IIのシリアル管理ポートを別のSX IIIに接続できます。次に、Dominion KX IIIと同様に、SX IIのDVI/USBローカルポートをKVMスイッチに接続すると、データセンター周辺の複数のSX IIIにアクセスできます。

サポートしているボーレートを教えてください

1,200、1,800、2,400、4,800、9,600（デフォルト）、19,200、28,800、38,400、57,600、115,200、230,400 bpsという複数のボーレートをサポートしています。[Port Configuration]（ポート設定）ページやCLIから、ポート別に設定できます。

Dominion SX IIのターミナルエミュレータは、どのようなコードセットをサポートしていますか？

Dominion SXリリース3.0以降は、デフォルト、US-ASCII、ISO-8859-1、ISO-8859-15、UTF-8、Shift-JIS、EUC-JP、EUC-CN、EUC-KRコードセットのVT100、VT220、VT320とANSIをサポートしています。

1台のSX IIから、同時に何台のシリアル機器にアクセスできますか？

ユーザーグループは、SX IIIに接続されているすべてのシリアル機器に同時にアクセスできます。たとえば、48ポートのSX IIの場合、そのSX IIIに接続している48台のシリアル機器すべてに、グループ内のユーザーが同時に接続し、アクセスできます。

SX IIIに接続している1台のシリアル機器に、同時にアクセスできるユーザーは何人ですか？

1台のシリアル機器に、同時に最大10人のユーザーがアクセスできます。同時アクセスの上限は、1台のSX IIにつき200です。たとえば、32ポートのSX IIで、そのSX IIIに接続している32台のシリアル機器にユーザー6人がそれぞれ同時にアクセスすると、合計192件のユーザーセッションになります。

SUN[®]「Break Safe」に対応していますか？

Dominion SXユニットはすべてSUN「Break Safe」で、SUN Solarisに対応しています。

シリアル機器への接続

SX IIIはどのような機器に接続可能ですか？

SX IIIはネットワークルーター、イーサネットスイッチ、ファイアウォール、Unix/Linuxサーバー、Windows サーバー、仮想ホスト、ラックPDU、UPS、通信/ワイヤレス装置など、さまざまなシリアル機器に接続できます。SX IIIはCat5ケーブルを介して、こうした機器のRJ-45、DB9、DB25シリアルコンソールポートに接続します。

ロールオーバーケーブルは必要ですか？

いいえ。SX IIのシリアル接続は自動検知ですので、DTE（データ端末装置）、DCE（データ通信装置）コンソールポートの双方にロールオーバーケーブルなしで接続可能です。SX IIIはCisco製など、互換性のあるRJ-45コンソールポートを備えた機器に、ロールオーバーケーブルなしで接続できます。

DTE/DCEとは何ですか？ なぜそれが重要なのですか？

RS-232シリアルポートはDTEまたはDCEです。DTEポートは一般にコンピューターや端末に用いられています。言い換えると、DB9（オス）COMポートです。また、DCEはモデム、CSU/DSU、マルチプレクサーや周辺装置に用いられています。DTEポートは通常、DCEポートにケーブルで接続されます。同じ種類のポートを接続する際は、個別にロールオーバーケーブルで接続する必要があります。SX IIIは自動検知によりDTEポートまたはDCEポートのどちらかに接続できます。

アダプターは必要ですか？

RJ-45コンソールポートに接続する場合は、普通のCat5ケーブルをアダプターなしで利用できます。また、ラリタンはオス、メスのDB9、DB25アダプターを、それらのシリアルポートがある機器用に販売しています。アダプターを利用するとラリタンのインテリジェントラックPDU PXシリーズにも接続できます。アダプターとピン配列について、詳しくは『SX IIユーザーガイド』またはオンラインヘルプをご覧ください。

シリアル機器との接続例は？

次の一覧表は、SX IIと標準的なネットワーク機器やコンピューター機器を接続する方法を示しています。表はシリアルポート（RJ-45、DB9、DB25）の種類とそのジェンダー（オス、メス）に基づいて、必要とされるラリタンのアダプターを示しています。

ベンダー	モデル	シリアルポート	接続方法
Cisco	Catalyst	RJ45	Cat5 ケーブル
Cisco	Catalyst	DB25F	ASCSD25M アダプターと CAT5 ケーブル
Cisco	ルーター	RJ45	Cat5 cable
Cisco	ルーター	DB25F	ASCSD25M アダプターと CAT5 ケーブル
Cisco	UCS	RJ45	Cat5 ケーブル
Cisco	PIX ファイアウォール	DB9M	ASCSD9F アダプターと CAT5 ケーブル
HP	サーバー	DB9M	ASCSD9F アダプターと CAT5 ケーブル
Dell	サーバー	DB9M	ASCSD9F アダプターと CAT5 ケーブル
IBM	サーバー	RJ45	Cat5 ケーブル
Checkpoint	ファイアウォール	DB9M	ASCSD9F アダプターと CAT5 ケーブル
Silicon Graphics	Origin	DB9M	ASCSD9F アダプターと CAT5 ケーブル
Sun	SPARCStation	DB25F	ASCSD25M アダプターと CAT5 ケーブル
Sun	Netra T1	RJ45	Cat5 ケーブル
Sun	Cobalt	DB9M	ASCSD9F アダプターと CAT5 ケーブル
Various	Windows	DB9M	ASCSD9F アダプターと CAT5 ケーブル
ラリタン	PX	RJ45	CSCSPCS-1 またはCSCSPCS-10 ケーブル

SX IIからシリアル機器までの最大距離は？

使われるボーレートによって最大距離は異なります。230,000ボーであれば1.2m、2,400ボーの場合は91m超と幅があります。

インストール、管理、構成

SX IIの初期構成はどのようにすればよいですか？

初期構成は、SX IIのローカルコンソールから手動で、またはUSBメモリかTFTPサーバーから自動で行います。手動の場合は、ご使用のノートPCを（1）USBまたは（2）シリアルケーブル経由で接続するか、（3）KVMコンソールに接続すると、CLIで構成できます。（4）クロスオーバーケーブル経由でノートPCをWeb GUIで接続し、構成することもできます。詳しくは『クイックセットアップガイド（QSG）』をご覧ください。

SX IIはCLIで完全に管理できますか？CLIはどこに定義されていますか？

はい、SX IIはCLIコマンドで完全に管理可能です。CLIの定義はオンラインヘルプ、ユーザーガイドにあり、CLI自体から利用できます。

自動構成オプションについて詳細を教えてください。

SX IIを自動的に構成する方法は2つあります。まず、SX IIのUSBポートに接続したCLIコマンドのスク립トで構成できます。また、CLIコマンドのスク립トはTFTPサーバーに保存でき、DHCPサーバー経由またはSX IIに設定して利用できます。セキュリティ上、どちらの方法による自動構成の場合も、管理者が有効にする必要があります。シリアル機器から返されたログインプロンプトに基づき、自動でシリアルポートに命名するオプションもあります。バックアップ/リストア機能を使用して、設定内容を同じモデルの別のSX IIにコピーすることができます。SX II設定データベースを、ファイルにエクスポートすることができます。

SX IIと同様、SX IIもファームウェアアップグレードにFTPサーバーを必要としますか？

いいえ。SX IIのファームウェアアップグレードプロセスはKX IIIと同様です。FTPサーバーは必要ありません。ユーザーはラリタンのWebサイトから暗号化されたファームウェアファイルをダウンロードして閲覧します。管理機能の多くは、KX IIIと同じです。このように機器をアップグレードするため、CLIでFTPを利用するという選択肢が今も残されています。

既存のSX IIの構成を新しいSX IIIにコピーできますか？

残念ながら、ソフトウェアとハードウェアが大幅に変更されているため、既存のSX IIの構成バックアップは新しいSX IIIと互換性がありません。

SNMP MIBファイルはどこで入手できますか？

SX IIのSNMP MIBはRaritan.comのDominion SX IIサポートページで閲覧できます。また、Web GUIの[Event Management - Settings] (イベント管理 - 設定) ページからも入手できます。

SX IIIはラリタンのCommandCenterと連携していますか？

はい。Dominion SX IIIはCommandCenter Secure Gatewayリリース6.1以降のファームウェアを必要とします。ユーザーはCommandCenterを利用し、Dominion SX、SX II、KX IIIなど、ラリタン機器に接続されている多数のシリアル (とKVM) デバイスに接続できます。

セキュリティ

Dominion SX IIは安全ですか？

はい。Dominion SX IIIは256ビットAES暗号に加え、FIPS 140-2モードと暗号化モジュールなど、米国軍隊レベルのセキュリティ機能を備え、堅固なセキュリティを実現しています。SX IIIは多くのセキュリティ機能を搭載し、リリースごとに厳しい脆弱性スキャンを受けます。セキュリティパッチはラリタンのWebサイトから入手可能になります。

Dominion SX IIIはFIPS 140-2認証を受けていますか？

Dominion SX IIIは、FIPS 140-2基準に準拠してLinuxプラットフォームで動く、組み込み型のFIPS 140-2認証済み暗号化モジュールを利用しています。この暗号化モジュールは、Raritan Serial Client (RSC) を使用する際、シリアルセッションの暗号化に用いられます

ActiveDirectory認証をサポートしていますか？

はい。ActiveDirectory、LDAP、Radius、TACACS認証をサポートしています。さらに、SX II管理者はパスワード付きでローカルユーザーを作成できます。

2ファクタ認証 (2FA) はサポートされていますか？

サポートされています。RADIUSサーバーとRSA SecurIDトークンを共に使用することで、2ファクタ認証がサポートされます。SX IIへのログイン時に、パスワードにトークン番号を加えることも可能です。

SX II 接続ではどのポートを開放しておく必要がありますか？

ポート443 (https用) です。ユーザーセッションのポート80 (http用) は任意選択です。SSHを使用中はポート22が開放されている必要があります。HTTP、HTTPS、Telnet、SSHのTCPポートはすべてユーザー側で設定できます。これらのユーザーが構成したポートは、アクセスを受け付けるよう開放しておく必要があります。TCPポート5000も同様です。

どのような種類のログギングが利用できますか？

SX IIはユーザーアクセス、セキュリティイベント、管理アクションで作成される多様なイベントをサポートしています。SNMP、Syslog、電子メール、NFS、内部ログファイルなど、複数のログギング方法を利用できます。

シリアルポートのデータはログファイルに記録されますか？

はい。シリアル機器からのデータはSX II、Syslog、またはNFSサーバーにあるローカルファイルにログとして記録できます。

デフォルトログインIDとデフォルトパスワードを教えてください。

デフォルトのログインIDは「admin」、デフォルトパスワードは「raritan」です。SX IIへの初回ログイン時にパスワード変更を要求されます。セキュリティ上の理由から、デフォルトの「admin」というログイン名も変更するようお勧めします。また、ローカルアカウントにも強力なパスワードを設定することをお勧めします。パスワードは[Security Settings (セキュリティ設定)]パネルで有効にすることができます。

Dominion SXの管理者パスワードを紛失しました。どうしたらよいでしょうか？

ユニットを工場出荷時の設定に戻すことができます。ユニットを工場出荷時の状態に復元するFactory Reset (ファクトリリセット) 機能が用意されています。このリセット機能にはいくつか設定可能な選択肢があります。

ユーザーインターフェイスとマニュアル類

Dominion SX IIにはどのようなWebベースのユーザーインターフェイスがありますか？

Dominion SX IIのグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) は他のDominion製品と同様で、Dominion SX II、KX、KXS、KX2-101-V2全体に共通するルックアンドフィール (見た目と操作感) を備えています。さらに、ファームウェア更新、バックアップ、リストア、セキュリティの選択肢、診断など、類似の管理機能を備えています。

SX IIIにはJavaが必要ですか？

不要です。リリース2.1のSX IIのユーザーインターフェイスはJavaが不要で、新しいHTML Serial Clientも搭載されています。SSH、Telnet、ラック前接続を経由したSX IIへのCLIアクセスでも、Javaは不要です。

Dominion SX IIのマニュアル類 (ユーザーマニュアルなど) はどこで入手できますか？

SX IIの製品ページで入手できるカタログにはSXの概要、販売モデル、アダプター、機能が明記されています。同じくSX IIの製品ページで入手できる特徴と利点を紹介する文書には、SX IIの特徴一覧が記載されています。SX IIのサポートページでは、リリースノート、ユーザーマニュアル、オンラインヘルプ、SX IIのMIB、ファームウェアのリリースなど、詳細な技術情報を提供します。